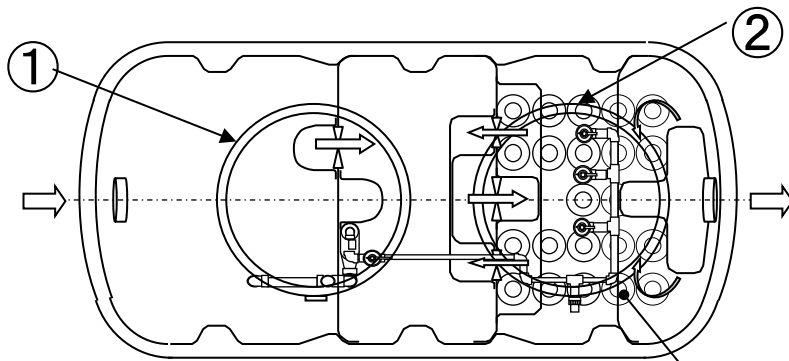
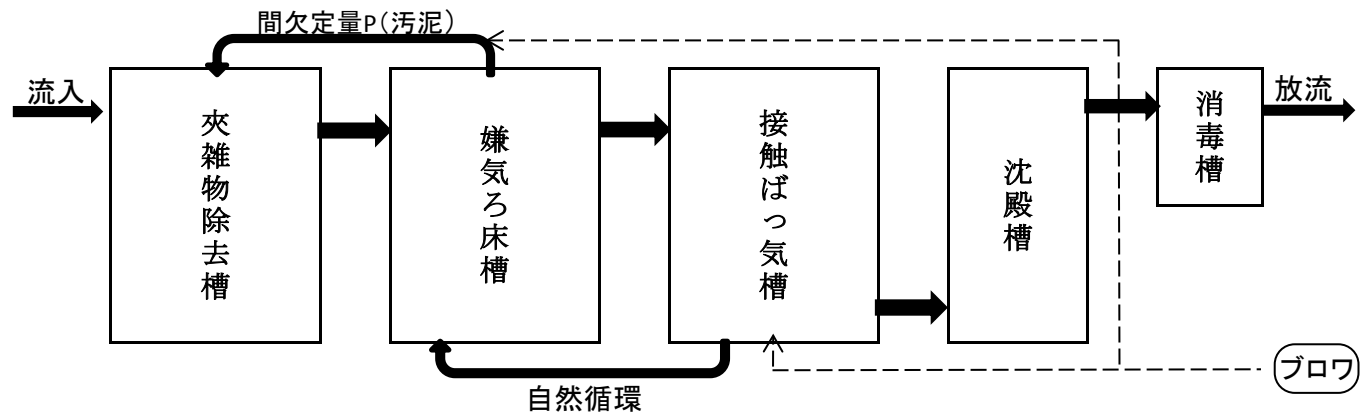
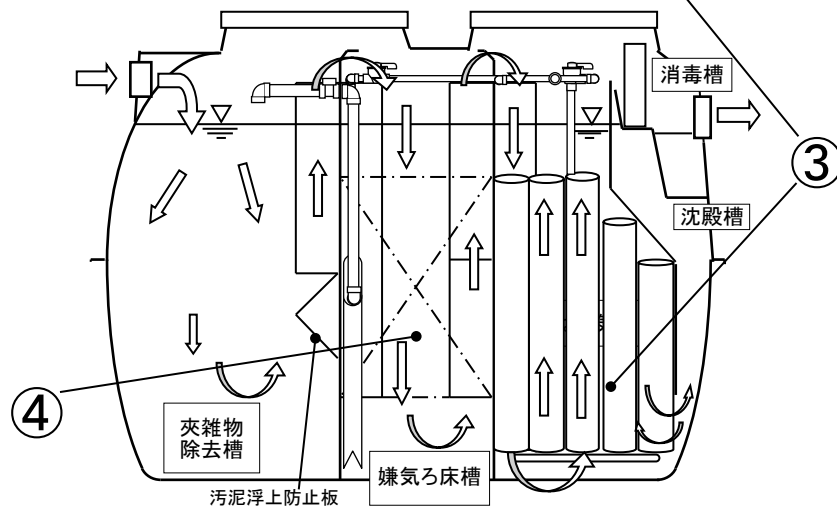


HS (株)アールエコ OEM: なし 共同開発: なし 処理方式: 濃縮嫌気ろ床接触ばっ気方式 5・7・10人槽	BOD除去型		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	—		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	15mg/L以下	—		



- ①嫌気ろ床槽
- ②接触ばっ気槽
- ③嫌気ろ床槽ろ材
- ④接触筒(接触材)



有効容量 (m <sup>3</sup> )		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	夾雑物除去槽	0.878	1.295	1.989
	嫌気ろ床槽	0.665	1.019	1.573
	接触ばっ気槽	0.658	0.927	1.317
	沈殿槽	0.126	0.181	0.276
	消毒槽		0.015	0.021
合計		2.342	3.437	5.176

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	嫌気ろ床槽	300
---------------------	-------	-----

循環装置	汚泥移送バルブ目盛(%)			散気バルブ
	5人	7人	10人	
有	7~8	9~10	12~13	全開

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)
5	60
7	100
10	150

[実使用人員に対する汚泥移送水量の設定範囲]

実使用人員(人)		5	7	10
汚泥移送 エアリフトポンプ	移送水量(ℓ/分)	0.4~0.5	0.5~0.7	0.7~1.1

・汚泥移送量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽 の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

**夾雑物除去槽** 流入水に含まれる大型の固形物、油脂等が分離され、貯留される。

**嫌気ろ床槽** ヘチマ様円筒状ろ材が充填され、槽内水は下向きに流れる。流入側隔壁付近に間欠定量ポンプが設置され底部の堆積汚泥を夾雑物除去槽に常時移送する。

**接触ばっ気槽** 槽底部に設置された散気管からの送気によって全面ばっ気され、各散気孔の真上に配置された接触筒の内部に送気されることによって上昇流が生じる。また槽内水の一部は、流入側の隔壁に設置された左右2か所の移流口より嫌気ろ床槽へ循環し、これにともなって剥離汚泥が自然移送される。

作 業 時 の ポ イ ン ト

**保守点検**

- ①嫌気ろ床槽:特に流出側底部の汚泥の堆積状況に留意してください。これが多量に認められかつ夾雑物除去槽の貯留機能に余裕があればスカム等と併せて移送してください。
- ②汚泥移送用間欠定量ポンプの移送量を実測して確認してください。(上表参照)
- ③接触ばっ気槽のばっ気・攪拌の状況を点検し水流が弱い場合は、逆洗もしくは散気管の洗浄を行ってください。
- ④逆洗:散気用バルブを片側ずつ5分間程度全開にし、それ以外のバルブを閉じます。次にブロウを停止、剥離汚泥を沈降させ自吸式ポンプ等で夾雑物除去槽に移送してください。

**清掃**

- ①夾雑物除去槽の汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。その他の単位装置は必要に応じて実施してください。